

起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内は純増額)

	51年		51 年		
	4～ 6 月	7～ 9 月	7 月	8 月	9 月
事 業 債	2,860	3,340	1,270	1,115	955
うち	( 1,592)	( 2,073)	( 849)	( 706)	( 518)
電 力	2,120	2,220	920	600	700
	( 1,575)	( 1,667)	( 726)	( 433)	( 508)
一 般	740	1,120	350	515	255
	( 17)	( 406)	( 123)	( 273)	( 10)
地 方 債	1,030	1,060	330	390	340
	( 807)	( 877)	( 267)	( 331)	( 279)
政 保 債	1,650	2,002	602	540	860
	( 1,015)	( 1,169)	( 402)	( 308)	( 459)
計	5,540	6,402	2,202	2,045	2,155
	( 3,413)	( 4,120)	( 1,518)	( 1,345)	( 1,257)
金 融 債	21,496	20,922	8,291	6,814	5,817
うち	( 5,340)	( 3,987)	( 1,680)	( 451)	( 1,856)
利 付	7,382	7,990	2,767	2,818	2,405
	( 3,754)	( 3,084)	( 1,248)	( 814)	( 1,022)
新規長期国債	21,560	9,693	5,000	4,000	693
うち	( 21,473)	( 9,576)	( 5,000)	( 3,883)	( 693)
証券会社分	1,977	2,129	736	716	677
引 受					
転 換 社 債	205	205	0	205	0

消化地合いは前月同様まず順調に推移した。

実体経済の動向

◇生産は3か月ぶりに減少

(生産——小幅減少)

8月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、-0.8%(船舶を除くと-0.9%)と3か月ぶりに減少した(前年同月比+15.1%)。

8月の生産を財別にみると、一般資本財が金属加工機械、運搬機械等の増加により前月の大幅増加に引続き増加したが、その他の財は軒並み減少した。

すなわち、耐久消費財では、民生用電気機械(電気洗たく機、電気冷蔵庫等)が減少したほか、乗用車、二輪自動車が一斉休戦もあって大幅減少となったことが響きかなりの減少。また生産財は鉄鋼、化学肥料等が増加したもの、電気銅、樹脂フィルム原料、段ボール原紙等の減少から、非耐久消費財は写真フィルム、石けん等の減少から、建設資材は橋梁、アルミサッシ、セメント等の減少から、それぞれ小幅の減少となった。

なお、製造工業生産予測指数(季節調整済み、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	50年		51年		51年		
	7～ 9 月	10～ 12 月	1～ 3 月	4～ 6 月	6 月	7 月	8 月
鉱 指 数	111.4	112.3	118.8	125.2	125.5	128.2	127.2
工 前期(月)比	2.0	0.8	5.8	5.4	1.3	2.2	- 0.8
業 前年同期(月)比	- 8.0	- 1.9	12.4	14.6	13.6	14.9	15.1
投 資 財	- 1.4	- 1.0	8.4	5.2	0.8	2.3	- 1.1
資 本 財	- 2.4	- 1.6	10.4	5.9	0.2	3.2	- 1.3
同 (輸送機械を除く)	- 2.1	- 0.4	8.8	6.2	- 2.7	5.5	1.3
輸 送 機 械	- 1.7	- 4.5	12.0	6.3	4.9	0.5	- 5.5
建 設 資 材	0.2	1.6	2.8	3.9	0.6	0.4	- 1.0
消 費 財	2.9	0.2	6.5	6.3	1.5	1.0	- 1.4
耐 久 消 費 財	2.8	2.6	10.6	7.6	- 0.1	0.3	- 2.4
非耐久消費財	3.1	- 1.9	3.0	4.9	2.7	1.7	- 0.1
生 産 財	4.6	2.2	4.0	4.4	1.1	3.4	- 0.3

(注) 1. 通産省調べ、51年8月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

前月比)によれば、9月の生産は-1.3%と当初予測(-2.1%)に比すれば上方修正されたものの減少が見込まれており、10月の当初予測も-0.6%の見通し。

#### (出荷—微減)

8月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は、-0.1%(船舶を除くと-1.1%)と4か月ぶりに微減(前年同月比+15.3%)となった。

8月の出荷を財別にみると、一般資本財は、運搬機械(コンベア、エレベーター)、金属工作機械を中心に、前月大幅増加のあと引き続き増加。建設資材はセメント、コンクリートパイル等は減少したものの、形鋼、棒鋼、スチールドア等が増加したため微増となり、また非耐久消費財は金属洋食器、灯油等を中心に増加した。

一方、耐久消費財は電卓が大幅減となったほか、家電製品(電気洗たく機、電気冷蔵庫、ウィンド型エアコン、カラーテレビ等)、二輪自動車、軽自動車等も減少したため、かなりの減少となった。生産財は、鉄鋼、化学肥料等が増加したものの、電気銅が大幅減となったほか、樹脂フィルム原料、板紙、織物なども減少したため、2か月連続増加のあと減少となった。

#### (在庫—微減)

8月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は-0.1%と微減、同在庫率は119.4と前月比横ばいとなった。

8月の在庫を財別にみると一般資本財がショベル系掘削機、標準モーター、変圧器等、また耐久消費財は電気冷蔵庫、カラーテレビ、軽乗用車等を中心に、各々前月に引続き増加した。また、非耐久消費財も新聞巻取紙、タオル生地等の増加から8か月連続の増加となった。

建設資材は板ガラス、アルミサッシ、アルミドアが増加したが、形鋼、棒鋼、セメントが減少し、前月比横ばい。

この間、生産財は鉄鋼(鋼板、鋼帯等)、非鉄(電気銅、亜鉛、アルミ地金)、繊維原料、段ボール原紙等の減少を主因に6か月連続して減少。

#### (設備投資—一般資本財出荷は引続き増加)

8月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、前月比)は+1.3%と前月の大幅増加(同+5.0%)のあと引き続き増加となった。

品目別にみると、トラクター(装軌式)、ショベ

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	50年	51年	51年		
			51年		
			51年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月 7月 8月
鉱工業	115.0	117.4	124.1	129.3	130.7 131.5 131.4
前期(月)比	0.8	2.1	5.7	4.2	1.5 0.6 -0.1
前年同期(月)比	-5.1	0.8	12.9	13.4	14.3 13.6 15.3
投資財	-1.5	1.9	8.0	2.3	-1.5 1.6 3.1
資本財	-1.4	2.8	9.4	1.7	-2.3 2.0 4.6
同(輸送機械を除く)	-0.9	-0.2	10.1	3.0	-2.7 5.0 1.3
輸送機械	-1.5	5.2	10.2	-0.6	-2.0 -2.2 12.1
建設資材	-1.4	0.5	4.0	4.1	0.2 1.4 0.2
消費財	0.2	2.5	4.2	5.1	1.5 0.1 -1.7
耐久消費財	1.7	3.8	11.9	3.6	-1.6 1.9 -4.4
非耐久消費財	-1.2	1.7	-1.9	6.6	4.6 -1.9 1.1
生産財	3.8	1.4	4.9	5.1	3.0 0.9 -1.2

(注) 1. 通産省調べ、51年8月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(一)率・%)

	50年 (期末)	51年 (期末)	51年		
			51年		
			51年		
	9月	12月	3月	6月	6月 7月 8月
鉱工業	162.1	160.9	158.5	156.8	156.8 157.0 156.9
前期(月)末比	1.2	-0.7	-1.5	-1.1	-1.1 0.1 -0.1
前年同期(月)末比	0.9	-5.2	-4.0	-2.1	-2.1 -2.3 -2.6
製品在庫率	140.7	134.6	121.4	120.0	120.0 119.4 119.4
投資財	3.3	-1.2	-4.5	2.0	0.1 0.4 -0.6
資本財	2.8	-1.3	-5.3	4.3	0.5 5.8 -1.0
同(輸送機械を除く)	-4.2	-2.3	-9.7	6.4	1.7 4.7 3.4
輸送機械	22.2	3.0	2.1	-2.2	-4.0 8.4 -9.4
建設資材	2.9	-0.6	-3.6	-0.6	0.2 -7.6 0.0
消費財	0.9	-7.3	3.2	4.4	1.8 1.7 0.4
耐久消費財	-2.3	-5.7	0.0	5.6	2.6 0.1 1.4
非耐久消費財	5.1	-9.4	6.6	3.6	0.5 3.0 0.1
生産財	1.0	2.5	-1.8	-6.1	-3.2 1.1 -0.3

(注) 1. 通産省調べ、51年8月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	50年	51 年			51 年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月		6月	7月	8月
民 需	1,938 (- 3.5)	2,672 ( 37.8)	2,365 (- 11.5)		2,327 ( 2.0)	2,092 (- 10.1)	2,026 (- 3.1)
同 (船舶を 除く)	1,909 (- 4.7)	2,725 ( 42.7)	2,390 (- 12.3)		2,460 ( 10.0)	2,215 (- 9.9)	1,981 (- 10.6)
製 造 業	871 (- 18.6)	1,152 ( 32.2)	1,132 (- 1.7)		1,048 (- 14.7)	999 (- 4.7)	1,034 ( 3.6)
非製造業	1,103 ( 17.5)	1,477 ( 34.0)	1,213 (- 17.9)		1,287 ( 26.7)	1,079 (- 16.1)	999 (- 7.4)
同 (船舶を 除く)	1,070 ( 13.0)	1,546 ( 44.4)	1,266 (- 18.2)		1,454 ( 43.8)	1,240 (- 14.7)	962 (- 22.4)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

ル系掘削機が減少を続け、農業用機械も減少したが、圧縮機・送風機が引続き増加したほか、運搬機械、金属工作機械、電子計算機等が大幅増加となった。

8月の機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、-10.6%(前年同月比-7.0%)と2か月連続減少となった(前月-9.9%)。

業種別にみると、製造業からの受注は鉄鋼が前月著増の反動から大幅減少、機械も微減となったものの、自動車、紙・パ、化学等が前月減少の反動もあって著増し、繊維も低水準ながら2か月連続して増加したため、+3.6%と小幅の増加となった。一方、非製造業(船舶を除く)からの受注は、前月に引続き電力の著減を主因に-22.4%と減少した(前年同月比-10.8%)。

この間、官公需は電電公社、防衛庁が著増したことを主因に+7.6%と2か月連続減少のあと増加(前年同月比-29.7%)。

8月の建設工事受注額(速報、季節調整済み、前月比)は-0.3%と前月大幅増加のあと微減(前年同月比-0.1%)。受注先別にみると、民間分が前月大幅増加の反動もあって-8.6%と4か月ぶりに減少したが、官公庁は、+0.7%と小幅ながら前月に続き増加した。

## ◇8月の小売商況は持直し気味

8月の全国百貨店売上高(速報、季節調整済み、前月比)は、前月(+1.0%)に引続き+2.0%と夏物

セール等もあって増加した。品目別には家庭用品、雑貨が依然低い伸びにとどまっているほか、身のまわり品もやや伸び悩んだものの、主力の衣料品が高い伸びとなり、また食料品も引続き堅調な伸びを持続した。

なお、9月の乗用車新車登録台数(自販連調べ、軽を除く、季節調整済み)は、前月比-7.4%と3か月連続の減少。これには台風・冷害も多少影響した模様。また、7~9月期通計でも季節調整済み前期比で-1.4%と減少した。

## ◇商品市況は小幅軟化

9月の商品市況をみると、一部商品が値上げ浸透(アルミ)や原料高(生糸、板紙)から上伸ないし強含みとなったものの、主力の鉄鋼が条鋼類中心に反落したほか、合繊、そ毛糸、銅、石油(ガソリンを除く)、砂糖も前月に引続き弱地合いとなるなど、前月弱保合いのあと総じて小幅軟化となった。

これは、①輸出の頭打ち(鉄鋼、合繊)のほか、値上げ前の仮需の反動(鋼板等)、国鉄・電電の発注抑制の影響(鉄鋼、銅、セメント)、秋需の出足が鈍いこと(建設資材、洋紙)などから一部に需給引緩み感が台頭し、②これらを背景にメーカー・流通筋の売り腰がやや弱まったこと(鉄鋼、合繊、銅)などが主因であるが、このほか③供給面で大方の業種が減産を継続しているものの、一部に減産緩和ないし高水準の操業を続ける動きがみられたこと(形鋼、C重油、そ毛糸)、④海外原料品市況の落着きが続いたこと(銅、砂糖)も響いている。

## (卸売物価——騰勢やや鈍化)

卸売物価は8月前月比+0.5%の上昇のあと、9月は上旬が+0.2%(前旬比)となったが、中旬は-0.1%(同)と50年7月上旬以来43旬ぶりに反落した(中旬の前年同月比+6.6%)。

品目別にみると、上旬には、鉄鋼、非鉄金属、金属素材等が下落した反面、雑品目(電力料金改定)、食料品(政府売渡米価引上げ等)、製材・木製品、非食料農林産物等は引続き上昇した。

## 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ ィ ト	51 年		51 年								
		1～3 月平均	4～6 月平均	6 月	7 月	8 月	8 月			9 月		
							上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	
総 平 均	100.0	2.0	1.6	0.5	1.0	0.5	0.2	0.1	0.2	0.2	—	0.1
食 料 品	13.4	3.8	0.9	0.2	0.3	0	0.1	0.2	0.2	0.3	—	0.5
非 食 料 農 林 産 物	2.4	3.0	4.5	3.1	3.4	1.1	0.2	0.8	0.5	0.6		0
織 維 製 品	7.8	2.4	4.2	0.5	0.9	0.8	0.5	0.1	0.4	0.2		0.1
製 材・木 製 品	3.8	1.7	2.4	1.1	4.9	2.7	0.5	0.7	0.1	0.5	—	0.1
パルプ・紙・同製品	2.8	— 2.6	— 4.9	0.4	1.7	2.4	1.3	0.2	1.9	0.3		0.4
金 属 素 材	1.9	7.7	4.0	— 0.5	1.8	— 0.4	0.2	0	— 1.2	— 1.7	—	1.2
鉄 鋼	9.4	4.4	3.6	1.4	3.0	2.3	0.5	0.3	1.3	— 0.6	—	0.2
非 鉄 金 属	4.2	2.0	7.2	1.4	1.9	— 1.9	— 0.9	— 0.8	— 1.2	— 1.0	—	0.8
金 属 製 品	3.8	0	1.7	0.3	0.3	0.4	0.1	0.1	0.4	0.1		0
電 気 機 器	9.0	— 0.8	— 0.5	— 0.1	— 0.2	0.5	0.4	0	0.1	0.1		0
輸 送 用 機 器	6.8	0.2	0.2	0.1	— 0.2	— 0.2	0	— 0.1	— 0.1	0.1	—	0.1
一 般・精 密 機 器	10.8	0.6	0.5	0.1	0.2	0.1	0.1	— 0.1	— 0.1	0.1	—	0.1
化 学 製 品	8.8	1.5	1.2	0.6	0.1	— 0.1	0.1	— 0.1	— 0.1	0.1		0
石油・石炭・同製品	4.6	3.4	0.4	0.1	1.0	— 1.0	— 0.3	— 0.3	— 0.3	— 0.2	—	0.1
窯 業 製 品	3.1	3.3	3.0	— 0.2	— 0.2	0.2	0.2	— 0.1	0.1	0.5		0
雑 品 目	7.6	0.8	1.2	1.0	1.5	1.7	0.8	0.7	0.9	2.2		0
工 業 製 品	85.5	1.7	1.8	0.4	1.0	0.6	0.3	0.1	0.2	— 0.1	—	0.1
大 企 業 性 製 品	63.3	2.0	1.7	0.5	0.9	0.5	0.2	0	0.1	— 0.1	—	0.1
中 小 企 業 性 製 品	20.1	1.1	2.1	0.5	1.3	1.5	0.7	0.4	0.4	0.4		0
非 工 業 製 品	14.5	2.8	0.9	0.9	1.4	— 0.2	— 0.2	0.5	0.4	1.6	—	0.5

(注) 日本銀行調べ。

中旬には、パルプ・紙・同製品、繊維が上昇した一方、食料品、一般・精密機器等が反落したほか、非鉄金属、鉄鋼、金属素材、石油・石炭・同製品も統落した。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>は反騰)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で前月比+2.8%と、前月下落(同-1.0%)のあと、4月以来5か月ぶりに2%を上回る大幅上昇となった(前年同月比+9.3%)。

これは、被服が衣料品の品目入替え等から反騰し、光熱も電気料金改定を映じて急騰したほか、食料も消費者米価の改定や季節商品の値上りから大幅上昇となったため。

また、季節商品を除く総合でも、前月比+2.0%と大幅上昇となった(前年同月比+8.6%)。

## ◇総合収支は黒字幅を縮小

8月の国際収支は、貿易収支が黒字幅を縮小したほか、長期資本収支が再び流出超となったため、総合収支で107百万ドルの黒字(前月同721百万ドル)と黒字幅はかなり縮小した。

經常収支は、貿易外収支が投資収益の受取り増等から赤字幅を縮小したほか、移転収支も小幅赤字にとどまったものの、貿易収支が、輸入の増勢や輸出の季節的落込みなどから黒字幅をかなり縮小(黒字587百万ドル、前月黒字1,005百万ドル)したため、43百万ドルの黒字にとどまった(前月黒字404百万ドル)。

長期資本収支は、本邦資本が国際機関への大口出資・拠出や資源開発関係の借款供与の増加から、かなりの流出超過となったうえ、外国資本が外債発行の低水準から流入超幅を縮小したため、

## 消費者物価指数の推移

(単位・%)

		ウェイト	51年		51年			最近月の前年 同月比
			1～3 月平均	4～6 月平均	7月	8月	9月	
東	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.9)	2.6 (2.3)	2.8 (2.7)	0.6 (0.4)	-1.0 (-0.4)	* 2.8 (2.0)	* 9.3 (8.6)
	食料	40.1	3.1	2.0	0.7	-1.5	* 3.3	* 9.1
	住居	11.1	1.2	2.0	0.6	0.6	0.5	5.5
	光熱	4.2	0.2	0.1	0.6	0.2	8.0	9.6
	被服	12.4	0.6	3.1	-0.4	-4.8	8.6	9.5
京	雑費	32.2	3.8	4.4	0.4	0.4	0.4	10.8
	特殊分類							
	農水畜産物	15.3	3.9	2.8	1.7	-4.6	...	12.1
	工業製品	42.7	2.5	1.7	0.2	-1.1	...	6.9
	うち大企業性製品	18.3	4.6	0.9	0.6	0.2	...	7.7
全	中小企業性製品	24.4	0.8	2.3	-0.1	-2.3	...	6.1
	サービス	38.7	2.5	4.3	0.4	0.4	...	10.6
国	総合 (季節商品を除く)	100.0 (91.7)	2.3 (2.0)	3.2 (3.1)	0.5 (0.6)	-0.8 (-0.3)	... (...)	9.2 (8.9)

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*印は速報。

全体としては、再び174百万ドルの流出超過となった(前月流入超131百万ドル)。また、短期資本収支は、貿易信用が5か月ぶりに決済超となったため、前月をかなり下回る80百万ドルの流入超過となった(前月流入超239百万ドル)。

なお、8月の貿易収支を季節調整後でみると、輸出はほぼ横ばいとなった反面、輸入が木材の入着増等から、大幅増加となったため収支じりでは、366百万ドルの黒字と前月(黒字735百万ドル)に比べ、かなり黒字幅を縮小した。

この間、外貨準備高は月中351百万ドルの増加を示し、月末残高は16,291百万ドルとなった。

## (輸出——高水準横ばい)

8月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整済み前月比で+0.2%と前月(同-3.4%)減少のあとほぼ横ばいとなった。もっとも原計数の前年同月比では、+22.0%と引続き高水準にある(前月同+22.8%)。

品目別(通関ベース)にみると、船舶(季節調整済み前月比+2.0%)が4か月連続増加したほか、鉄鋼(同+1.2%)、自動車(同+3.5%)、化学肥料

(同+12.6%)等も増加した一方、テレビ(同-17.0%)が大幅減少したほか、食料品(同-18.8%)、繊維・同製品(同-1.7%)、テープレコーダー(同-4.6%)等も減少した。

地域別には、西欧向け(季節調整済み前月比+2.3%)、中南米向け(同+3.8%)が再び増加したほか、中近東向け(同+24.2%)も3か月ぶりに増加となった反面、米国向け(同-2.3%)が再び減少し、東南アジア向け(同-3.4%)、共産圏向け(同-20.1%)も減少した。

先行指標である輸出信用状  
接受高(季節調整済み前月比)

は、8月-5.4%のあと、9月+4.0%と3か月ぶりに増加した(前年同月比+14.8%)。

## (輸入——大幅増加)

8月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整済み前月比で+8.3%と前月(同+4.5%)に引続きかなりの増加となり、原計数の前年同月比も+22.4%と高い伸びを示した(前月同+13.3%)。

品目別(通関ベース)にみると、砂糖(季節調整済み前月比-21.5%)が、5か月ぶりに減少したほか、石炭(同-7.5%)、機械機器(同-20.2%)も減少した反面、原油(同+7.0%)が3か月連続増加をみたほか木材(同+19.1%)、とうもろこし(同+7.9%)も引続き増加し、羊毛(同+7.7%)、小麦(同+19.3%)等も当月は増加した。

9月の輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は、前月+5.7%のあと+6.4%と引続き増加した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	50年	51 年		51 年			前年 8 月
	10～12月	1～3月	4～6月	6 月	7 月	8 月	
経 常 収 支	566	△ 97	828	414	404	43	22
貿易収支	1,889	1,482	2,368	975	1,005	587	495
輸 出	14,860	14,161	16,069	5,618	5,782	5,298	4,344
輸 入	12,971	12,679	13,701	4,643	4,777	4,711	3,849
貿易外収支	△ 1,259	△ 1,522	△ 1,394	△ 453	△ 566	△ 532	△ 434
移 転 収 支	△ 64	△ 57	△ 146	△ 108	△ 35	△ 12	△ 39
長期資本収支	△ 606	219	30	△ 101	131	△ 174	6
本邦資本	△ 1,171	△ 933	△ 868	△ 371	△ 253	△ 468	△ 166
外国資本	565	1,152	898	270	384	294	172
基礎的収支	△ 40 (△ 1,220)	122 ( 1,355)	858 ( 1,720)	313 ( 452)	535 ( 265)	△ 131 (△ 352)	28 (△ 168)
短期資本収支	△ 151	△ 243	155	△ 9	239	80	△ 115
誤差脱漏	△ 395	335	△ 205	△ 144	△ 53	158	△ 181
総 合 収 支	△ 586	214	808	160	721	107	△ 268
金融勘定	△ 586	214	808	160	721	107	△ 268
外貨準備増減	△ 454	1,367	1,215	187	543	351	△ 545
その他	△ 132	△ 1,153	△ 407	△ 27	178	△ 244	277
外貨準備高	12,815	14,182	15,397	15,397	15,940	16,291	14,090
為銀対外ポジション	△ 13,471	△ 13,257	△ 12,449	△ 14,943	△ 14,749	△ 14,953	△ 14,022

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
50 年 10 ～ 12 月	(+ 4,573 5.6)	(+ 4,337 5.3)	236	(+ 4,630 3.9)	(+ 4,994 3.5)	(+ 3,621 8.2)	(+ 5,017 7.8)	(+ 5,351 5.2)
51 年 1 ～ 3 月	(+ 5,239 14.6)	(- 4,334 0.1)	905	(+ 5,359 15.7)	(+ 5,037 0.4)	(+ 4,061 12.1)	(+ 5,606 11.7)	(- 4,959 7.3)
4 ～ 6 月	(+ 5,394 2.9)	(- 4,317 0.4)	1,077	(+ 5,520 3.0)	(+ 5,088 1.0)	(- 4,046 0.4)	(+ 5,906 5.4)	(+ 5,157 4.0)
51 年 5 月	(+ 5,489 5.4)	(- 4,212 3.5)	1,277	(+ 5,497 3.2)	(- 4,798 4.8)	(- 3,930 3.3)	(- 5,632 7.7)	(+ 5,007 1.7)
6 月	(- 5,486 0.1)	(+ 4,372 3.8)	1,114	(+ 5,738 4.4)	(+ 5,426 13.1)	(+ 4,143 5.4)	(+ 5,986 6.3)	(+ 5,538 10.6)
7 月	(- 5,302 3.4)	(+ 4,567 4.5)	735	(- 5,513 3.9)	(+ 5,447 0.4)	(- 4,029 2.8)	(- 5,685 5.0)	(- 5,533 0.1)
8 月	(+ 5,312 0.2)	(+ 4,946 8.3)	366	(- 5,439 1.3)	(+ 5,658 3.9)	(- 3,811 5.4)	(+ 5,898 3.7)	(+ 5,846 5.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(一)率(%)。